



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

「笑顔と歯並び」

矯正歯科 科長 中納 治久



2013年9月7日、国際オリンピック委員会(IOC)総会がブエノスアイレスで開かれ、56年ぶりに2020年オリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催されることが決定しました。その経済

効果は36兆円ともいわれ、日本全体が前向きな気持ちになったようにも感じます。しかし、その後2年で、五輪エンブレム問題、新国立競技場の建設費問題などが生じ、開催までに様々な困難を解決しなければなりません。このようにハードの問題が生じる一方で、われわれ人のソフトスキルはどうなのでしょう。国際的に「おもてなし」を披露すると誓ったのですから、それなりの準備が必要だと思えます。

ソフトスキルとは、コミュニケーション、語学力、リーダーシップ、ファシリテーションなどのスキルを指します。笑顔は万難を排するものでもありますから重要なコミュニケーションスキルで、素敵な笑顔には多くの方が引き寄せられます。2014年、20代～30代独身男性500名を対象に行った「女性の笑顔に関する調査結果」において、「女性の笑顔の魅力を左右する顔の部分はどこだと思いますか？」の問いに対して、1位は「目元」が56%、2位は「口元」29%となり、3位の「肌」3%を大きく引き離しています。さらに、「歯並びを良くすることで、笑顔の魅力の度合いは変わりますか？」と聞いたところ、「変わると思う」と答えた人は86%となっています。

矯正治療前後の笑顔の写真をご覧ください。随分とイメージが違いますよね。



<矯正治療前>

<矯正治療後>

「八重歯」は、食べ物が詰まり、歯みがきがしづらく、むし歯や歯周病になり易く、不正咬合をまねいたりとかなり問題です。よく言われることですが、世界的に見て八重歯が可愛いというのは、恐らくは日本だけ。欧米では吸血鬼のような歯(ヴァンパイア・ティース)とか「魔女の歯」、中国でも「虎の歯」として好印象とは捕えられていません。

一般的に、日本人の表情は分かりづらいと言われます。昔の女性は、笑うときには、扇子か袖で口を隠して笑いました。それは、奥ゆかしい、控えめな日本人の心情を表した文化なのでしょう。しかし、グローバル社会におけるコミュニケーションには、分かりやすい表現が必要かもしれません。笑顔には歯並びが重要です。歯並びは、虫歯や歯周病を始め、全身の健康問題にも大きく影響します。将来まで永く歯を使い続けるためにも、ぜひ自分の歯並び・かみ合わせに関心を持ってみてください。そして、美しい笑顔を手に入れましょう。



矯正歯科 紹介

きれいに並んだ白い歯で、健康と自信に満ちた明るい笑顔をつくること、それが矯正治療の大きな役割です。矯正治療は、不自然な位置にある歯やあごの骨を整えて美しい歯並びや正しいかみ合わせや、さらにバランスのとれた口元を作り出すことです。きれいな歯並びは、むし歯や歯周病の予防につながり、将来にわたってお口の健康維持に貢献します。

当科の歯科医師は、様々な科学研究の成果を通して、先進的な治療を推し進めております。

[先進的な医療に関して]

1)非結紮式ジルコニア製ブラケット(マニューバー)の開発

従来の矯正治療で用いられるマルチブラケット法では、ブラケットとワイヤーを結紮することによる摩擦抵抗が生じるため、より強い矯正力を必要とし矯正治療に長期間を有していました。そこで、結紮を必要としないジルコニア素材の矯正装置(マニューバー)を開発しました。[図1]



[図1:マニューバー]

本矯正装置の開発により、歯の移動に伴う痛みや軽減、歯周組織への為害作用の軽減、口腔周囲筋機能阻害の低減、矯正治療メカニクスの単純化など臨床的意義は大きいものと推察されます。[図2]



[図2:マニューバーによる治療例(治療期間12ヵ月)]

2)マウスピース型矯正装置(インビザライン)の応用[図3]

マウスピース型の矯正装置で、二週間毎に交換する矯正装置です。従来のブラケット装置に比

べ、目立たず、審美的で、取り外しができ、歯ブラシがしやすく衛生的です。さらに、金属アレルギーがあっても安心です。患者さんひとりひとりに合わせて最先端のCAD(光造形)技術を用いて製作されます。



[図3:マウスピース型矯正装置(インビザライン)]

[医療連携に関して]

当科では、地域の歯科医院のみならず、昭和大学歯科病院 顎顔面口腔外科・補綴歯科、小児歯科、昭和大学病院形成外科、等と様々な医療連携を行っています。顎の変形からかみ合わせの異常を起こす顎変形症。この顎変形症の治療には顎の手術を併用する外科的矯正治療が必要となるため、顎顔面口腔外科や形成外科との連携が必要です。さらに、昭和大学口蓋裂診療班(SCPT)では、かみ合わせの異常を起こす唇顎口蓋裂や先天異常の患者さんの治療を包括的に行っています。医学部形成外科を班長、歯学部矯正歯科を副班長、形成外科言語治療室に事務局としてチーム医療を推進しています。なお、顎変形症や唇顎口蓋裂などの厚生労働大臣が定める疾患に対しての矯正治療は、保険診療が可能です。

以上、当科では総勢32名の医局員で、総合歯科病院ならではの最先端の矯正治療を目指します。

矯正歯科 科長 中納 治久



歯科医師紹介：歯周治療は、『患者⇄歯科医師』の関係で行っています

歯周病科 助教 小出 容子、助教 紺野 有紀子

私は昭和大学を卒業し、大学院を経て現在まで歯周病専門医として歯周治療に携わっています。お口の中で1歯だけ歯周病になることは稀なため、一口腔単位で包括的歯科治療(歯周病特有の治療以外にも必要な歯科治療)を行います。フラップ手術、GTR法や自家骨移植、バイオリジェネレーション法(先進医療)をはじめとする再生療法、根面被覆に対する歯周形成手術も行います。

虫歯や義歯等多くの歯科治療が、通院すれば必ず治る『患者←^{歯科治療}歯科医師』という受け身の関係です。しかし、歯周病は『患者←^{歯科治療}歯科医師』という患者さんが受け身では決して治りません。歯周病は生活習慣病の1つで、毎日のプラークコントロール(磨き残さぬようにブラッシング、歯間部清掃をする)が徹底されなければ治らない、患者さんも治療に共に参加する『患者⇄歯科医師』という関係です。患者さんの協力が得られなければ、専門医でも歯周病は治せません。毎日徹底的に磨くことや定期的なメンテナンスの継続は非常に大変なことで、頑張っ下さっている患者さんには頭が下がります。これからも、患者の皆さんと一緒に歯周病治療に励みたいと思います。

小出 容子

私も昭和大学歯学部を卒業後、歯周病学講座に大学院生として入局しました。

大学院生時代は骨代謝に関わる基礎研究をする一方で、講習会などに参加しながら臨床の勉強をしてきました。さまざまな勉強会や講習会に参加する中で、自分がいかに不勉強な状態で患者さんに接していたかということに気づき、強い恐怖を覚えました。それからは、少しでも患者さんに失礼のない治療ができるようにと勉強や練習を行う日々を過ごしています。幸いなことに、学んだことをすぐに還元しやすい患者さんや医局の環境にも恵まれ、毎日反省を繰り返しながらも、楽しんで診療を行っています。

大学卒業時に想像していたものとは違いながらも、歯周病という口腔内全体のみならず、患者さんのライフスタイルにも関わることのできる分野を専門とすることができて、本当によかったなと思っています。昨年、念願の歯周病専門医を取得しましたが、反対に臨床家としてはまだまだであることを強く自覚しました。これからも一生勉強を続けて、よりよい歯科治療を行えるようになりたいと思います。

紺野 有紀子



歯周病科 スタッフ

自衛消防訓練審査会 報告

平成27年9月4日(金)に田園調布せせらぎ公園にて田園調布消防署主催の自衛消防訓練審査会が開催されました。田園調布消防署管内の15事業所23隊が集まり日ごろの訓練成果を披露いたしました。歯科病院からは男子隊、女子隊各1チームが1号消火栓の部に出場し、男子隊が優勝、女子隊が3位の好成績を収めました。事務課



男子隊指揮者 澁谷 徹嗣(守衛室)

自分の勤務場所は自分で守るという意識をもって本審査会に臨みました。これからいざという時にしっかり行動できるよう、使命感を持って勤務したいと思います。

男子隊1番員 村田 修二(守衛室)

今年は例年に比べ厳しい残暑が続く、審査会の訓練は非常につらかったですが、優勝という結果を残すことができ、たいへんうれしく思っています。この経験を活かし、日々の業務に励んでいきたいです。

男子隊2番員 稲月 俊哉(守衛室)

われわれは(株)パトロールサービスの警備員として歯科病院の安全と安心を守るために日々勤務して行っております。これからも、今回の審査会の訓練の成果を発揮し、歯科病院を地震や火災から守っていきたいと思います。

編集後記

編集後記を担当するようになってから何年か経ちますが、自然災害に関する記事を書く頻度が年々増加している気がします。今回の北関東、東北では50年に一度の豪雨により鬼怒川などの河川の堤防が決壊し、甚大な被害をもたらされました。今回の水害で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災され、不自由な生活を余儀なくされている皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。いつ来るかわからない天災に備え、健口で健康を保つとともに体力の向上を目指しましょう。

(K.T)



女子隊指揮者 高島 楓(補綴歯科)

今回初めて自衛消防隊の訓練に参加させていただき、実際に消火栓などを使用し消防署の方々の指導を受けられたことはとてもいい経験になりました。多くの患者さんがいる歯科病院での自衛消防隊の役割を、身をもって感じる事ができたと思います。

女子隊1番員 小曾根 菜摘(歯科衛生士)

たくさんの方の丁寧で温かいご指導のもと練習ができ、審査会では3位を得ることができました。今回の経験を通して、病院という大きな組織においての自衛消防の大切さを実感することができました。このような経験ができてよかったです。

女子隊2番員 八巻 知里(歯科技工室)

災害時にどのような行動を取らなければならないかを今回の訓練で知ることができました。病院の職員として非常時にしっかりとした対応ができるよう、これからもこの経験を忘れず心に留めておきたいです。



歯科病院 自衛消防隊



下に～、下に～、ナポレオンのお通りだ～
撮影:横山 薫